

ありがとうの灯中

学校便り第11号
令和7年2月14日
福井市灯明寺中学校



2月4日北海道帯広市で、たった一晚に1m強を超える大雪が降りました。観測史上一番の記録だそうです。列島各地でこの冬一番の積雪となり、多くの事故や交通障害が起き、流通にも大きな影響が出ました。自然の猛威の前では私たちは抗うこともできず、耐え忍び、そして、それらの苦難を克服するしかありません。

私たちのふるさと福井も、歴史の中で福井空襲や福井地震を含めた多くの自然災害に見舞われてきました。1945年7月19日の夜10時55分頃から約81分間、アメリカ軍B29爆撃機116機が福井市上空に飛来し、総計約953トンの爆弾を投下しました。約1600人の人が亡くなり、福井市の約96%の家が焼け落ちました。まさに地獄です。福井市のほとんどが焼け野原となり、戦争の愚かさを目の当たりにしました。

そして、それから3年後、戦後の復興が進み始めた矢先の1948年6月28日午後4時13分、福井平野を震源とするマグニチュード7.1の大地震が発生しました。死者は約3700人、福井平野の約60%の家が全壊し、やっと光と希望を見出し始めた人々の生きる気力と体力など、そのすべてを奪うことになりました。

さらに、自然は私たちに更なる追い打ちをかけます。震災1ヶ月後の7月25日の夕方、本州南岸に停滞した梅雨前線と若狭湾に発生した低気圧の影響で九頭竜川が増水し、中藤島村灯明寺付近の堤防が300mに渡り決壊、濁流が福井市内へと流れ込みました。約7000戸が浸水し、約28000人が被災しました。

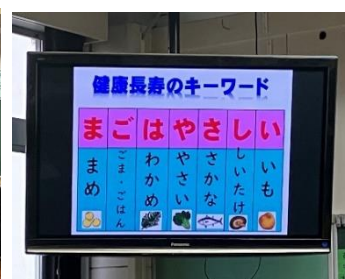
このように、福井市はこれまで幾度も未曾有の災害を経験してきましたが、その都度深い悲しみや苦しみを乗り越え、力を合わせ、まさに不死鳥（フェニックス）のごとく復活を遂げてきました。『フェニックス福井』という言葉が生まれたのも、先人たちの力の賜だと感じます。福井人としての『誇り』と言えるでしょう。

今月の「灯中プライド」は、これまでとは違って、各自が自分自身で決める目標『□□□□』です。先日の大雪の中いつものように、校門のところで皆さんの登校を迎えているとき、3年生の女子3名が手のひらサイズの雪だるまを私に手渡してくれました。寒い中頑張って立っていることへのエール？として受け取り、とても心の中が温くなりました。また、4月当初は挨拶をしても、あまり返事は返ってきませんでしたが、今ではほとんどの生徒が、返事で、会釈で、『心の握手』をしてくれます。校長として、皆さんの優しさや相手思いやる心を感じることができ、とてもとても嬉しく感じています。よって、私の今月のプライドはこれです。

「今の灯中生こそ、私の『プライド（誇り）』です！」 福井市灯明寺中学校長 佐藤 勉 (Big Ben)

<1年:食育「福井の食材と健康について」>

1月29日（水）の5限目、1年生は2月7日の『ふるさとの日』を前に、「健康長寿福井の秘密について考えよう！」のテーマで食育の授業を行いました。栄養教諭の竹田汐里先生がご来校され、健康と食事がいかに深く関わっていて、『まごはやさしい』のキーワードを大切しながら食事をするのが大事ということを学びました。ふるさと福井の食材や自然に感謝しながら食したいと感じました。



<2月3日:新入生入学説明会>



2月3日（月）の午後2時から、来年度入学する児童とその保護者を対象とした「新入生入学説明会」を行いました。本校の生徒会が学校の様子や中学校へ入学する上での心構えなどについてスライドを使って説明しました。171名の児童たちは、皆真剣な面持ちでその話を聞き入っていました。そして、「Let's 授業体験」の時間では、目を輝かせながら生の中学校の授業を楽しむ姿がありました。